

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第13週 (3/28-4/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		13週	12週	11週	10週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/28-4/3	3/21-3/27	3/14-3/20	3/7-3/13	3/21-3/27
			13週	12週	11週	10週	12週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	5
	咽頭結膜熱	○	4	1	3	1	11
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	54	33	53	48	350
	感染性胃腸炎		97	82	102	85	574
	水痘		7	8	7	7	48
	手足口病		0	0	1	1	1
	伝染性紅斑		1	3	7	8	30
	突発性発しん		9	3	7	4	33
	百日咳		0	0	0	0	1
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	1
	流行性耳下腺炎	○	14	10	12	9	157
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		187	268	578	762	2,451
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		2	5	4	2	18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	3
	マイコプラズマ肺炎		0	0	1	1	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	1	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	無菌的であるべき検体からの細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	女性	60歳代	病原体の検出				
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
A型肝炎	男性	60歳代	血清IgM抗体の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等

・第13週は、結核4件(51)、A型肝炎1件(1)、アメーバ赤痢1件(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(3)、急性脳炎2件(9)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

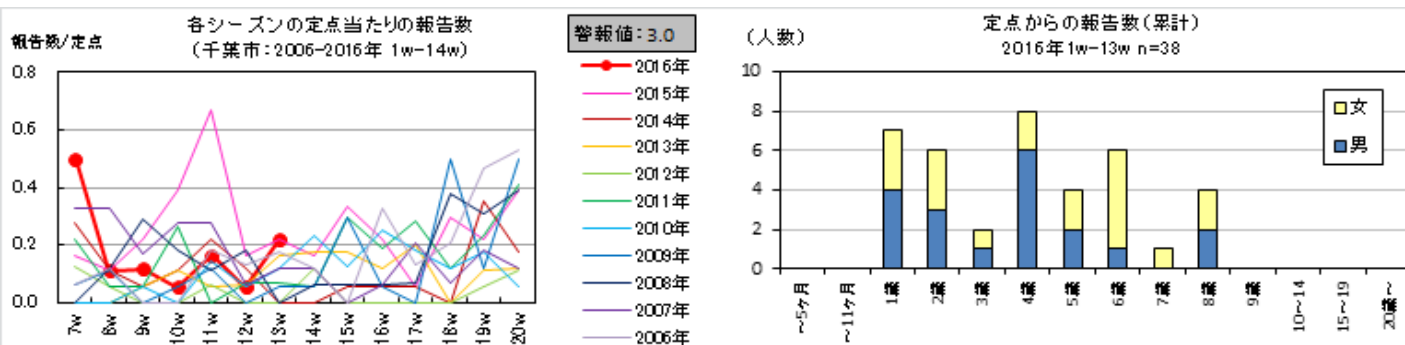
定点当たり報告数 第13週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると2015年と並んで最多。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜流行性耳下腺炎＞前週より再び増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

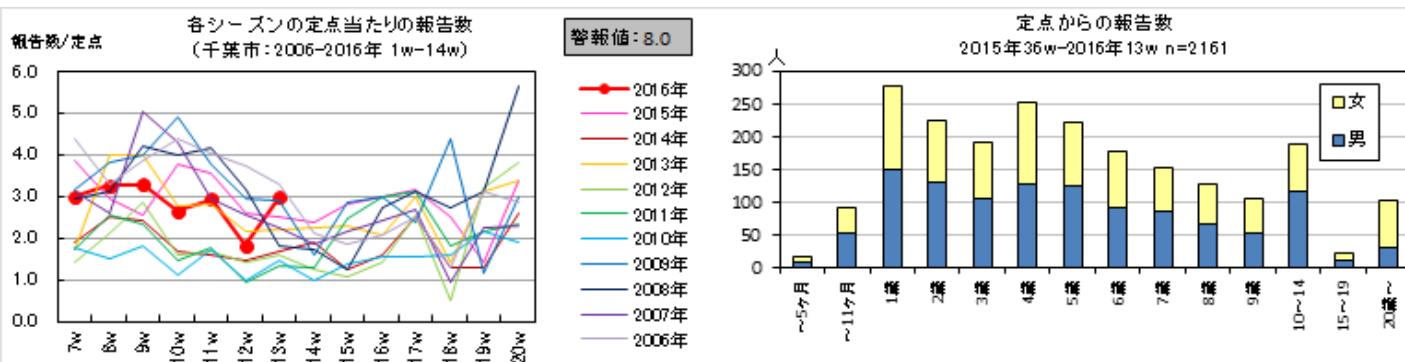
<咽頭結膜熱>

全国レベルの第12週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、島根県、香川県、徳島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2016年第13週は前週より増加し0.22となり、過去10年の同時期と比べると昨年と同数で最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(15.7/定点)で最多となっており、同区の1歳、5歳及び7歳で発生報告がありました。2016年第1週から第13週までの累積報告数(n=38)によると、性別では男女共に50.0%(共に19名)で、年齢階級別では4歳(21.1%:8名)、1歳(18.4%:7名)、2歳及び6歳(共に15.8%:6名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第12週現在は、過去9年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第13週は前週より増加し3.0となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(5.67/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第13週までの累積報告数(n=2161)によると、性別では男性が53.9%(1164名)、女性が46.1%(997名)で、年齢階級別では1歳(12.9%:278名)、4歳(11.7%:252名)、2歳(10.5%:226名)の順に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第12週現在は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、宮崎県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第13週は前週より再び増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると依然として高い水準となっています。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の5歳~7歳で多く発生報告がありました。2016年第1週から第13週までの累積報告数(n=126)によると、性別では男性が55.6%(70名)、女性が44.4%(56名)で、年齢階級別では6歳(17.5%:22名)、5歳(15.9%:20名)、4歳及び7歳(共に15.1%:19名)の順に多くなっています。

